京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

◆購讀料　一部金二錢△一ヶ月前金三十錢△三ヶ月前金九十錢△六ヶ月前金[illegible]△一ヶ年[illegible]
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
◆廣告料　△五號活字十七字詰一行金[illegible]△四號活字十七字詰一行金[illegible]△特別廣告[illegible]

發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　[illegible]久一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
電話[illegible]
仁川宮町三丁目　仁川支局
東京市京橋區南佐柄木町七番地　東京支局

雜錄

通俗藝術の將來（上）

鳴雞

△敢て之れを朝鮮と限らず、廣く母國內地の狀勢に就いて觀るも、今日此頃の通俗趣味界に於ける流行物即ち通俗藝術品――一般俗衆の趣味性を對象とする藝術品とも云はゞいひ得べき流行物は、曰く浪花節、曰く仁輪加、曰く新派劇、曰く活動寫眞、曰くキネオラマ、曰く蓄音器、稍下つては講談落語と「自然派亞流作讀」と云つた類のあたじけない小說類。

△而して、此等流行物の總てが、悉くリファインされて居らぬ藝術品たることは、何人も直に之れを認め得るところで、斯ふ揃ひも揃つて低級な物品が國民の大多數から歡迎されつゝあるのは、一見、甚だしく奇異の感に打たれざるを得ぬ次第であるが、而も靜に之れを精察するに於ては、此等幼稚粗笨なる藝術品若くは娛樂品が、現代の趣味に適合するとの理由で自然必然なるを認め得るを[illegible]。

△何が故に然るか、其の答は甚だ簡單である。二十世紀の日本は實際的活動の時代で、趣味の時代でないからである。[illegible]

△勿論、江戸文學のエッキスとして精緻に精鍊を經たる云ひ傳へ松葉の歌澤や、室町文化が所產たる優雅なる能樂や、現代尚ほ一部少數の人士に歡迎されぬではない。併し此等古藝術の趣味は既に／＼現代人士大多數の趣味性に對しては、餘りに高致覺であるのだ。[illegible]

△即ち如上の敍述は、實は寧ろ現代人士が趣味性の退步を誇つて居るものだと稱して差支ない。

で、且つ之れを世界の趨勢に觀て、現代の日本が益々實際的活動を劇烈ならしむべき傾向を有して居ることが明かであるとしたならば、國民趣味性の對象物たる所謂通俗藝術品なるものも亦、益々俗惡に下り行くべきは決して之れを推知するに難くはないのである。

△果して然りとせば、此種藝術品は世の益々劇烈なる實利的活動を要求する日に至ると共に、終には全く其の跡を絕つに至らざるか、若し將來も尚此の種の藝術品の存在を可能とすれば、其の如何なる變形を採るに至るべきかと云ふが如き問題を研究するは、甚だ興味ある事であらうと思ふ。

文苑

●殘菊吟

野鶴　小盟

籬の菊に露をきまどふ十一月十一日偕をあはれとされはさるゝ[illegible]日の顧々と俳諧を聞きける一代に名句一ッあらば澤山にこう、古人今人の精箱は實たうもあらず

京鄙の人に遁げ散る酒千鳥
千鳥鳴ん題號を出よ若き人
隣れさひ祝盛も友なき千鳥
[illegible]大銀杏に座す
[illegible]に霜氷破る男の子
霜水や物寂小屋のあら揃に
[illegible]やエイヤと斗り錦刀
時代めくロオボックの榾火哉
[illegible]の主菜供を自在鉤にして
枯見花書を負ひ行や寂らに
落葉に路にもらるゝ枯尾花
時雨止で低空の月や見枯窓
落葉枯林に歸牛もうど暗く
嵐枯らし鷄や鵯に羽虫取
落葉堆高く小流の堰をなす

俳句

仁川卯月會俳句第九輯

△題　菊いろ／＼

（新聞天長節俳諧家安靜）以上十二字中會員互選一句點秋題刋二字題手詠込

四一　黃菊白菊咲亂たる草家哉　諧南
四〇　香る世を靜に避し菊のぬし　一滴
三六　大奧の瓶よ菊の鈴會哉　竹[illegible]
三七　孤つ家の裏も嬉ら野菊哉　洪水
三六　事納す一もとの菊白うして　俳北
三五　勝負も靜な物よ菊合せ　海南
三四　將棊に身は安んじて菊の主　一杯
三三　御代靜菊九重に匂り見　是空
三三　麗しき天顏と共に菊拜觀す　しづく
[illegible]　梅圃

三一　菊咲や伏家の各戸も覗るゝ　醉仙
三〇　此家に贈位の沙汰や豐る菊　松郷
二九　家事は子に任て我は菊の世話　竹賀
二八　菊の戸や物靜なる人出入　菴亭
二七　香り洩て名に立つ菊の伏家哉　月宗
二六　安らかに世を老ひ遂て菊の主　甘柿
二五　牡丹に名を得し家や菊の花　白神
二四　菊膾祝膳の肴に香り發　錦北

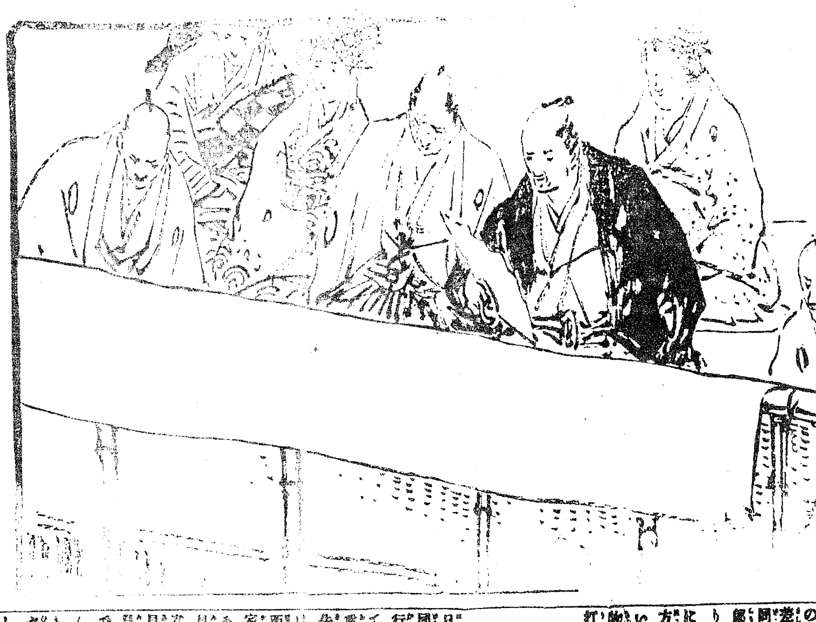
梁川庄八（やながはしやうはち）

第三十四回

小金井蘆洲演

代官森本甚太夫は再度の失策に、愈よ氣は焦燥つて來た者だから、甚「今度は谷の戸我れ出て一つ取れ」と谷の戸と云力士に下知をした、此谷の戸と云のは幕の內中軸を取て居る演館から見れば、ズーと上の相撲です、年も若かし力量もある、此邊での贔負相撲だ、迷惑には思つたが代官の下知では斷るには斷れもせず、據なく土俵へ上りまして、見物は前の如く、騷いで見たが泣く見た地頭の響で、是非なく鳴を靜めた、○「勝見山が負けても恥にはならねへ相撲だから構やねへが、何うも演館とは同一には成らねへから勝めへな」△「然うだイヤ負けても惜くはねへ」と目に噂をして居る、[illegible]拔れもあり演館のやうに呑んでしまふな

い、念入りに仕切を付ける、谷の戸は四股を踏んで力を拔み是又大事に仕切る、双方氣合が滿ちて、ツと立つた、行司は「ハッケヨイ」と聲を掛ける、立上りさま二三度突合つて居た中にガッキリ四つに渡つた、互に上手を引いてヂリ／＼と隙あらば乘せんと、双方呼吸を測つて居る中に機熟して勝見山上手投げを打てば、左はさせじと谷の戸吊身に寄らんとするを外掛けにもたれ込んで孝太郎の勝も、行司は「勝見山」と軍配を擧げる、見物は◎「アレ又勝見山が勝つたぞ、强いぞう……强いぞ……勝見山アー」、支度部屋へ逃げて這入る、如何にも負傷が宜いから演館ども默くは見物は云はない、前後四番の相撲に綿のやうに疲れた孝太郎、勝見山／＼と云ふ賞讚を受けて、ヘト／＼になつて土俵を降りやうとすると、甲「オット待つた素人には似合はない、强い力だ一番乃公が取ろう」と聲を掛けて出て來ましたのは大關鬼面山馬五郎、此男は房總三州に並ぶ敵がない今迄土俵で二人投殺したと云位、日の下開山横綱でもある身分の弟子の演館、谷の戸の二人が負けたので、代官から出ろと云下知で有た處へ、土俵へ上つて來ましたは身の丈六尺五寸色は飽まで黑く、筋骨太く逞しく肉は盛り上り、勇氣勃々として面に怒氣を現はし眼中血走り、一挫ぎにしてくれんと云有樣で四股を踏む、其勢ひの凄まじさ鬼神の荒れたる計りの態です、見物は嬉へ坐て甲「ヤア／＼勝見山鬼面山が上つた迚も敵はねへから早く降りろ……早く逃ろ」乙「怪我でもするといけねへから逃ろよ」と地團太踏んで怒鳴ると、例の通り目明しが嚇かす、孝太郎は驚いた一縮みになつて了て、面宵醒めて土俵から降りて逃げやふとすると、代官手附の下役目明しが溜りに控へて居て目「孝太郎此相撲一番取らぬ內は土俵から降ろす事は出來ぬ、此一番で御免になるのだから取れ、若し又降りるに於ては御代官の御下知を背く件によつて、其方に繩を打て陣屋へ引立るぞ」前には鬼面山と云大敵がある、後方に十手を持つて目明しが居る、進退茲に谷まつて今更後悔悲嘆の体、孝「アー阿母さんの介抱をして家に居れば、斯んな災難に出會はなかつたに、賴まれて出て來てなまじ勝つたばかりで、御代官樣の御憎しみを請け、鬼面山と云强敵の御取の爲に投殺されるのか、アゝ今呑んだ水か末期の水か、此土俵は冥途に旅立つ一里塚か、情けないな阿母さんに一目逢たいが夫れも是非なし」と鬼面山の容子を見ると、深山の嵐に嘯く猛虎の如くでございます、始めの內は怒鳴た見物も、目明しに嚇かされて聲も出ず、皆淚ぐんで孝太郎が不憫だと、心配をして成行を覗つて居ります、和泉村の名主組頭一同揃つて棧敷の前へ參りまして名「恐れながら御代官樣に御願ひ申上ます、孝太郎事最前から四番の相撲に痛く疲れて居ります、處へ又候大關の鬼面山馬五郎關と、取組ましては常人の身体も微塵に相成ます、何うか彼れが日頃の孝行の廉によりまして、此取組は御差許しを願とう存じます、偏に村方一同の願ひでござります」甚「默れ孝太郎は遁れの力士である、假令鬼面山たり共、負ける氣支へない、此相撲一番にて勝は當然すから、是非取らせる、其方等心配するには及ばん」と取合はない、村役人は打萎れて餘儀なく引下る物語がしき小屋も俄に悄然として水を打つた樣に相成ました。



◉男子に對する希望

（一）女を時々喜ばして欲しい

日本の男子は、どうも婦人に對して、同情の念が少ないやうであります、旅行の時などにも、男子の体質の異なつて居る事などは、一向御構ひなしに、重い荷物を奧さんに持たせてツン／＼先へ行くなどは、あまり見よいものではありません、夫れから日本の男子は西洋の男子と反對に、他人を混へない家庭內では、優しい主人でも、來客があるか又は外へ出ると、良夫の權威を見せつける積りでありませうか、叱らないでもよい事を、無暗に叱り付けて見たり、困つてゐるのを知らん顏して見たりします、西洋人の樣に手を組んで歩いたり、主人が夫人の靴の紐を結んでやる事などは、日本の風俗に合しませんけれども、人前で特に荒々する必要はなからうと存じます、今一つ節しますと、日本の男子は、外へ出てはお藝者などに御冗談を云つたり、またヤレ指輪だ、ヤレ着物だと、望むまゝに買つてやつたりする癖に、宅へ歸ると直ぐ、もう六個敷い顏をして、子供にさへ笑顏を見せない方が、まゝあるやうですが、就中女に取つて一番に口惜しい事は、病氣の折です、夫の病氣の時には、もう傍に附き切りで、夜の目も合さず、看病するにも係らず、妻の病む時はうるさいといはん許りの態度に出る夫も、往々にありますが、斯ういふ時には、せめて一服の中將湯でも買つていつて、妻の心を喜ばして欲しいものであります、殿方は外に出る事が多いけれども、婦人は家庭には一番長く居なければならないのですから、名[illegible]はつて喜ばして戴けば、自然に家庭に和氣が滿ちて、男子も愉快に暮す事が出來るだらうと存じます、

（二）男子の品行問題

男子の品行問題は、婦人に取つて甚だ大なる關係があります、何故と申しますと、男子が不品行の結果、默な病氣を奧樣に傳へ、子々孫々に病毒を流しまして、世の中に出ても活動の出來ない、虛弱な子供が出來る例は澤山にあるのです、それはまだよいのですが、大方子供が出來なかつたり、折角出來ても早產したり、世しりましまして、資金にも勝る子を持つて、和氣藹々と暮らす樣な幸福を得ることが出來なくなります（中將湯中將球があるから此弊害は防げるにしても）

（三）婦人衛生の研究が必要

男女が先天的に体質の異つてゐるのは今更申す必要もありませんが、婦人の月經や、姙娠の生理狀態なぞは、多くの男子は全く無關係でありますが、婦人の生理を知つて來ると、自然婦人に同情の念が生じて來る譯になります。ヒステリー俗にいふ血の道は、一概に我儘病氣など仰つしやる方がありますが、これは婦人の生殖器關係の一種の精神病で、一年中でも季秋の候に[illegible]、氣がふさぎ、[illegible]の事が氣にかゝり、過去の事や、取越し苦勞なし、思ひつめては夜も眠れない樣になる、然るに主人の性質によりましては「どうも家內は我儘でいかん」など叱りになりますが、既に同情に缺へません、婦人は兎角月經が不順になつたり、滯つたり、時期に早いと遅いの不同があつたり、甚だ多少があつたりするものですが、其度每に苦痛を感じたり、頭が痛んだり、頭の毛がつれたり、肩が凝つたり、腰足が冷たり、眼が眩んだり、耳が鳴つたり、顏がほてつたりします、姙娠などは、非常に神經が過敏になりまして一寸した事に泣き易くなつたり、怒りつぽくなつたりして、自分で制するつもりでも、中々抑へ切れないものであります、それを我が儘だと思つて、ガン／＼申しましたら、一層神經が興奮する許りです、それに姙婦に怒らせたり、驚かせたりすると、直にそれが胎兒の性質に影響するのですから、斯ういふ時には、優しく劬つてやるといふ心を持て欲しいのであります、つまりは姙娠二三ヶ月目から起る病[illegible]でありますが、吐氣を催ふし、營養物が取出來ない爲めに、身體は非常に[illegible]しますから、諸事氣を付けてやる事は夫の親切だらうと存じます、[illegible]帶は、婦人にはよくある病氣です、これは子宮內膜炎の結果で、姙娠を妨げる恐るべき病氣です、子宮內膜炎の結果は不品行な夫より感染したる、淋疾より生ずる事が多く、自分より妻の病氣に對し、冷淡に見てゐるのは、あまり人情を解したものではへますまい、それから俗に、疝氣と申しまして、腰足が引釣り痛み、又は胸に塊が出來て、それが時々胸へさし込んで、氣絕する樣な事もあります、これは子宮の痙攣で御座います、以上述べた通り、婦人病は誠に厄介なものが多いのでありますから、夫たる人、又は將來夫たらんとする男子は、十分婦人に同情し、婦人病の場合には、中將湯の服用を勸めていたゞきたいのであります、而して中將湯は服藥で身體の內部から治す目的、中將球は外用藥として[illegible]、效能は內外相俟て一層迅速で[illegible]

中將湯、中將球は全國到る處の藥店にて販賣す、若しなき時は、病人の容體を詳しく書き添へ、本舖東京日本橋區[illegible]丁目津村順天堂へ注文せられよ、本舖には數種の加減藥ありて、病症に應じ、適當の加減藥を發送す、中將湯代價五週分二圓五十錢、二週分一圓十錢、一圓六十錢、六十錢、四日分三十五錢、二日分[illegible]、中將球定價百二十個入五圓、[illegible]入二圓、二十個入一圓、九個入[illegible]、試分三個入二十錢。

朝鮮代理店　京城南大門通三丁目　新井藥房

東京電報

▲越後柏崎大火 十三日朝越後國柏崎町字新町より發火し郵便局劇場等八百餘戶全燒せり

▲宇佐川中將後備 十日を以て服役停年滿期となりし宇佐川中將は後備仰付らる

▲艦隊全部革軍に投ず 在支那奥松寮日艦長發電或筋に達したる確報に據れば去る十二日午前八時支那艦隊全部は南清革命軍に投じ革軍の勢益々優勢を極めつゝあり

▲蕪湖は平穩なり 蕪湖は革命黨に歸せるも市中平穩にして居留民皆無事官憲は獨立を宣告すと公報ありたり

▲南京は無警察 南京は今や無警察狀態に陷り强盜掠奪盛に行はれ官軍は武器補塡の爲め蕪湖鎭江に引上げ中なりとの公報達す

▲芝罘道臺逃亡 汕頭、潮州は十日革命軍の手に歸し芝罘道臺衙門も占領され道臺は行衛不明となれり

▲五百の官兵燒死 官軍は漢口支那街を燒き拂はんとして自から放ちし火と革命軍の放ちし火に挾まれ約五百名猛烟の裡に燒死せりとの公報あり

▲日英同盟と動亂 清國の內亂漸く擴大すると同時に我政府は[illegible]を以て英國との間に[illegible]効に實現せざるべからず[illegible]意見の交換をなし居れば[illegible]の日到るすべしと觀察するものあり

▲三井の動機說 [illegible]會が開陵礦山等を擔保として清國に貸借たる額は十億兩以上にして若し革命軍が北京を陷れ宣統帝を廢するか若しくは革命軍の財政に危害を與へらるゝ場合は事實上滿洲の滅亡となり債務の繼承者確立せざるに於ては勢ひ債權國は其の權利を保留する爲擔保品を差押るの外なく同時に外交的干渉起らんといふ

▲滿洲獨立協議 趙爾巽は綏遠道と協議の上奉天長春の新軍の期迫まるに於ては諮議局と謀り滿洲の獨立を宣言し日本及各國の援助を求むべしと

▲領事團と日本兵 奉天在奉天各國領事は萬一の變に備ふる爲會議を開きたる結果外國人は日本兵の保護を受くることゝなれり

▲袁北京に到着す 袁世凱は昨夕自己の兵を率ひ北京に着せり警戒頗る嚴重なり一般人民は袁の入京を見平和に向ふ可しとし人心沈靜すとの公報あり

▲東京の大火災 今朝下谷區[illegible]町に出火し烈風の爲二百五十餘戶全燒し貧民多く慘狀を極む猶同時に深川冬木町より出火し丸燒け三十二戶、半燒五、燒死二、同所は材木商多く損害多大なり

北京特電

▲北京市民の狼狽 北京は張紹曾の入京と共に噴火すべき形勢なり爲めに二百餘萬の市民は周章狼狽其慘狀名狀すべからず

▲臨時救濟會の成立 曩に米國宣教師等の主唱にて成立せる臨時救濟會は[illegible]等の盡力により外務部を經て列國外交團と交涉の結果列國の贊同を經て國際的慈善團体の成立を見るに至り日本の救濟會も其の一部に加はり協力して着々計畫を進めつゝあれば近く其の一大活動を見るべしと云ふ

▲造幣局危機に迫る 北陽造幣總局は滿洲八月二十八日より毎日十萬餘元の銀貨を鑄造し之を湖北北京天津等の各市場に分配せる外猶局內には銀貨三百萬元を有し昨今係員役員等は逃走する者尠からずして頗る混雜を極めつゝあり

▲革軍の探偵隊 革命軍は探偵隊を組織し之を各地に派遣し官吏軍人にして現政府のために革命軍に抵抗する者官軍の爲めに軍器の密賣をなし機密を官軍に通ずるもの等を探知せしむ可しと云ふ

上海電報

▲領事團の決議 上海領事團會議にては[illegible]まで上海道臺の管轄下にありたる外國居留地內の清國人を共管下に置く事を決議し其旨を漢文にて布告したり其要に曰く國際居留地會審衙門判事及吏員等は外國判事等の贊同を得て管下居留地警吏を指令し會審衙門の調印ある逮捕狀及其他裁判所の適法なる命令を執行し[illegible]る權利の執行を助けしめ目下上海は不安の狀態に在るも法律を遵守する居留地內清國住民の之れが爲め影響を蒙る事なかる可く其の權利を保護する[illegible]何人にても腕力若しくは威嚇的形式により妨害するものあらば發見次第法律違反者として假借なく逮捕處刑すべしと

▲袁世凱の躊躇 袁世凱は革軍黎元洪より中華合衆國大統領に擧げん事を申出でたるより袁は其の回答に躊躇し居れり

▲湖南省の形勢 湖南諮議局は獨立宣言に關し目下討議しつゝあり

▲南京益々不穩 南京の官軍は到る處虐殺の暴行を極め市中大騷擾を釀しつゝあり革軍の援兵は續々到着し其勢優勢なり

▲佛山鎭を占領す 佛山鎭は十日革軍の占領する處となれり

雜報

●教育勅語達送 各道學校に送付すべき教育勅語は目下總督府印刷局に於て謄本の調製を急ぎつゝあるが近日中出來の筈なれば出來の上は直ちに各道へ送付すべしと云ふ

●半島林業の調査 朝鮮の山林は甚しき荒廢に歸し居れりと雖も尙各大河の流域又は從來の封山には相當の樹木なきにしも非ずして之等の利用又は今後林政の大方針に關しては相當の學識經驗あるものゝ調査を要する筈にして從來朝鮮政府時代に於ては柳田技師の如き熱心に調査に從事せしが其後當局者の變迭に伴ひ調査の續行を見ず從て其方針も變更したるやにて近々完成せんとする林野概況圖等に多大の勞力を費したるものあるも一般の企業者又は林業家等が知らんとする朝鮮山林の現狀に關する調査の備はらざるは尤も缺點なりと業者は語り居れり

●領事裁判と國際法 …秋山法學博士の談…

在東京の清國公使汪大燮氏が東京を引揚げ上海の革命黨に投ずるとか弁は既に公使たるの資格を失ひしものなり、元來一國の公使が一國を代表し他國に駐在するものはクレデンシャルと稱して當該國の信任狀を要すべし、清國の動亂が假りに革命黨にて勝利を得たりとするも之れを一の邦國として認定するは第三國の權利にして其の時期は容易のことにあらざるものなり、今日の場合に當り革命黨は未だ交戰團体と認むる能はず、彼等は清國の內亂者なり、換言すれば清國政府より見て刑法上の犯罪人なりとす、其の犯罪者たる反亂者を正當政府との間に戰鬪を繼續する團体として第三國が之れを認定する時機は左に記載する三個條を要すべし

第一 革命黨は政府を組織し他國に對しては少なくとも其の爭戰行爲に關して權利義務の關係を履行し得るの確定なる狀態にあること

第二 政府と反亂者の戰爭が容易に治まらず其の狀態は國家と國家との間に於ける如き戰爭ならざるべからず

第三 第三國が交戰團体と認むるに付き其の必要を生ぜざるべからず換言せば第三國に密接なる利害關係の存在を必要とすべきものなり

以上の條件にして具備する時は交戰團体として認むる事を得べきも今日の狀態にては第一第二の條件は一應具備するものと見られ得るも第三の條件は未だなりとす而して清國政府は革命黨を刑法上の犯罪人として取扱ひ居れることなるが若し夫れ第三國が之れを反亂者と見ざる場合は國家と同一の資格あるものと認定することになるべし反言すれば革命黨に向て間接に聲援を與へ清國政府に敵意を向くることゝなるべし此反亂にして清國政府之れを鎭壓したりとせんか國交を害すること甚しきを以て革命黨を交戰團体と認定する時期は第三國の利害關係に至大の影響を生ずる場合なりとす

目下の場合に於ては北京政府は其の必要上より可なり軍艦又は兵器の輸入を爲すも固より可なり而して一方革命黨に於ても兵器を輸入するに當りて北京政府が之れを積載せる第三國の船舶を停船又は押收することを得ず若し捕拿したりとすれば海賊行爲として之れを所罰し得るは第三國の權利なりとす、而して交戰團体として認定したる實例は一千八百六十一年より同六十三年に亙りて南北戰爭の當時北軍は英佛の兩國より認定されしことあり、反亂の狀態が到底鎭壓し得ざる場合は種々の利害關係を生ずるに付き反亂者も茲に交戰團體と認むることを得るものなるが清國今日の趨勢を察するに第三國は其の居留民又は商業等に關して消極的に保護の必要を生ずるに至らば反亂者を以て交戰團体と認むるに至らん、倘は國內動亂の爲め第三國に其國交を爲す能はず混亂狀態にあるの實例は佛國革命の當時ナポレオン帝の出でたる以前の佛國なりとす（完）

●定例長官會議 十四日午前九時三十分より定例長官會議を開き山縣總監、石塚、荒井、倉富、大屋、池田、宇佐美、菊池、俵、小松の各長官及山形中佐等出席し十一時散會せり

●京畿道米作（豫想） 京畿道に於ける京城府外一府三十六郡の本年度第二回米作收穫豫想高は一百〇三萬一千四百九十五石にして之れを本年度第一回のそれに比較すれば多少の減少を見たり其の原因は第一回の調査の當時は恰も一般の開花期にして暴風蟲害等甚しからざりしに其の發育の狀況最も良かりしに基因したるに第二回調査開始の當時に於て暴風及蟲害の被害甚だしかりしにより多少の減少は免れざりし然れども大勢に於て其の成熟良好にして之を平年作に比すれば約一割前年の實收高に比すれば二十萬二千八百六十石を減したりと

●學校職員任命 十三日官報號外を以て各學校職員任命發表されたるが其の重なるものを記せば左の如し

京城專修學校事務取扱 關屋貞三郎
京城高等普通學校長 桑原護一
平壤農事學校長 篠田治策
大邱農業學校長 三浦直次郎
全州同 峯秀次
晉州同 佐藤政次郎
公州同 指宿武吉
海州同 末田新松

●學務主任召集 既記の如く總督府は教育令實施に伴ふ各道學務主任を召集すべく準備中なりしが此の程漸く右準備なりたるを以て愈々來る二十日より三日間總督府に召集する事に決定し夫々召集狀を發したり

寄書

大連より（十日朝） 釋尾旭邦生

水浪兄足下 余等一行は前便ハルピンより一書を寄せし如く六日朝ハルピンを出發長春に引き返し大連に出で旅順を弔ひ申候、愈々十一日の急行にて歸京致度心得に候。

大連は流石に南滿第一の商港丈ありて壯麗なるものに候、ロスキイ得意の粗大的建物の上に南滿鐵道會社が念の入りたる改修を施したるを以て其港灣と云ひ市街と云ひ、實に堂々たるものに候、殊に二頭立の馬車を二臺又は三臺相連ねて縱横に驅驅し猶は何等の狹さを感ぜざるに至りては、京城本町通りの人の到底夢想だにも及ばざる所に候、大連は餘り景氣善き方にはあらずと云ふも七千萬圓の貿易高を有する大連は不景氣と云ふても仁川の不景氣とは少しく趣きを異に致候。

旅順は眼に觸るゝ所、足の觸るゝ所、悉く是れ日露將卒の血痕ならざる無く、今猶凄慘の氣人に迫まるものあり、余は其土を履むに忍びず、其眼を擧ぐるに忍びざるものの有之候、其東鷄冠山の殘壘に入りて當年苦戰惡鬪の跡歷々として今猶は新なるものゝあるを見ては、戰爭なるものゝ如何に慘然なるかを語り得て餘り有之候、然して余は此東鷄冠山の堡壘戰に於て當時の我將校中如何に堡壘戰の智識と實驗とに乏しかりしかを看取し、其れが犧牲となりし幾多の將卒に對し萬斛の淚を灑ずる能はざりし次第に候、ア、二萬五千の我將卒を殺して陷落したる此旅順の値は[illegible]分高價なるものに候、此高價なる旅順をして永久に其價値を失はざらしむるは我文武臣民の心すべき所と信じ候。

水浪兄足下、南滿鐵道會社は彼れ此れの批評あるも其活動は八面六臂、其働きは目覺ましきものゝ有之候、余は南滿鐵道の働き振りを見て、其立案に當りたる後藤の偉なるを想見せざるを得ず、其れと同時に東拓の現狀に想到して悲憤遣る方無之候、南滿は寧ろ働き過ぎ、東拓は眠り過ぎて死せるが如き感有之候、宇佐川の爺さん、後藤に對して何の面目かある。

水浪兄足下、支那革命軍の勢破竹の如く、南清一帶は殆ど叛軍の馬蹄に委せられ、北京朝亦危機を報せられつゝあるの今日長春の軍營中にも、窃に革命軍に款を通ずるものありと傳へられ、奉天の兵は南清に入りて革命軍に投じたりと傳へられ、滿洲一帶頗る不穩の狀態に陷り、奉天鐵嶺の如き既に婦女子は避難に忙殺され、在留內地人も亦何時にても引揚をなす可く準備をいたし居候、而かも大連に怯じき滊船出入を傳へられ隨つて營口大連の商況も日を追ふて影響を度を加へ來りたりとの事に候、餘は歸京の上に讓り候、先は早々如件。

●部事務所移轉 京城府內五部事務所は從來南大門電車通り府民會館に置き聯合的執務し居たるが事務繁劇となりたるを以て東部事務所は以前長生殿に移轉したるが今回西部は[illegible]に中部は[illegible]邸內に北部は東十字橋上東谷に夫れ〳〵移轉し南部は矢張從來の事務所に於て執務する事となしたり

●記者團晚餐會 岡野告天子北京行の途次十三日夜入京せしに就き記者團の有志は同夜十時より白水樓にて晚餐會を開けり

●東拓の貸附耕牛 既報の如く東拓會社にては今春より其の所有地小作人（日鮮人共）中耕牛を購入する資力に乏しきものには牝牛一頭宛貸附し年賦償還を以て所有せしむるの方法を實施中なるが其中唯た朝鮮人等の飼育保管は果して廣く實行し得べきやにつき懸念し居りし處其の成績良好にして小作人も大に之れを歡迎し會社も別に回收上危險を感ずることなきを認めたれば漸次之れを擴張するの方針なりといふ尙今日迄各出張所に於て貸附したる牝牛の數及其の生產犢數を揭ぐれば[illegible]貸附牛數四七犢生產數一六水原同三一同一四砂利院二九同九榮山浦同二五同七大邱同一六同目下調査中開城同一五同四計一六三五〇なりと

●淺野氏鑛山經營 平安南道江西郡[illegible]面の鑛區は明治四十二年頃より淺野總一郞氏の所有に歸し其頭淺野氏は一部分の採掘を爲したるに鑛石の質良好にして頗る有望なりしも運搬の不便なるに因り採掘を中止して鑛區は殆んど委棄せられたる如くなりしに今や平南鐵道開通したるを以て鑛石の運搬には稍々便利となりたれば今回淺野鑛業部より技手事務員等を派遣して去月二十八日より鑛區十三ヶ所の試掘をなし其結果に依りて來春より大規模を以て採掘をなす由なり

●日朝間電信線障碍 釜山下關間海底線は三日以來時々障碍を生し通信上影響を受くること尠からざりしが遂に十三日午後三時釜山巖原間にて斷線となりたる結果日本內地朝鮮間電報は當分輻輳遲延を免れず之が復舊迄には約二週間を要する見込

●高知視察團來京 高知縣會議長を初め縣農會長及郡農會長等十五名は朝鮮視察の爲め來る十六日入京の筈なるが京城へ五日間滯在し夫れより水原、太田へ赴き全南地方を視察歸縣の豫定なりと

●李完用伯人事局長訪問 李完用伯は十四日總督府に國分人事局長を訪問し欸談したり

●岡野朝日記者の出發 大阪朝日新聞記者岡野告天子は十四日夜行列車にて北京に向ふ

●中村農務課長 中村農務課長は十三日忠清北道清州に出張したるが十五日歸任の筈なり

●閔李王職長官の總監訪問 閔李王職長官は十四日午前十一時總督府に山縣政務總監を訪問せり

●石田視學官の巡視 石田視學官は十三日より京城府內に於ける各官立學校を巡視中なりと云ふ

●避難外人來鮮 北京大學堂の女教師米人クレーン、サイセットの二孃並に秦島皇サレマースクール教習スタータル、チーシの二孃外一名は北京の動亂を避け奉天に滯在中なりしか昨今奉天も動搖不穩に傾きしより一行五名は去る十二日午前九時奉天發安奉線列車にて安東縣に着同夜は[illegible]旅館に投宿し翌十三日午前七時安東縣發車タルチーシ孃は京城南大門內メリーブルバートソン氏宅に他のクレーン外三名は平壤プレスベテリアン敎會に投宿したり右一行は初めての來鮮にて滯在中釜山大邱其他を視察すべく[illegible]

●村田憲兵中尉の歸任 北韓地方に出張中の第二憲兵分隊長村田中尉は歸任したり

●瓦斯電燈使用者增加 日韓瓦斯會社の電燈及瓦斯使用者は近來俄かに增加し電燈の點火數は[illegible]一萬九千二百燈なりしが昨今一萬五千五百燈に達し又瓦斯も一日二三の申込みありといふ

●東拓の新築落成式 東洋拓殖會社の新築は近々工事竣成するに付十三日官民數百名を招待し盛んなる式を擧くべしと云ふ

●京城民團と京都視察團 京城民團にては今回渡鮮せし京都視察團に京城民團の情勢を說明せる冊子を贈呈せり

公人私人

▲竹村昌計（鎭南浦區裁判所判事）三日平壤行
▲佐藤潤象（韓國瓦斯取締役）同日
▲米人イ、ムラィ（宣教師）同日
▲富家正義（參政課技師）同日
▲岡野養之助（朝日新聞記者）同日夜發北行
▲松田和庄吉（陸軍少佐）日の丸
▲牧山耕藏（日本電報）十三日滿洲視察より歸京

▲京城手形交換高

十一月十四日 枚 八八〇 金 三二一、六九七、三一〇

●殖民地教育 比較 殖民地教育として臺灣と比較研究するの必要あり學務當局者に於ても曩に小田事務官を臺灣琉球等の出張調查せしめ其結果によりて施設に資する處もあるやに聞く臺灣の教育組織も朝鮮と同じく初等高等の普通教育及實業教育を別ち臺灣人を教育するに公學校[illegible]內地人と臺灣人との[illegible]我高等普通學校の如く其他國語學校[illegible]の教員養成所を兼ねたる如き[illegible]以て臺灣人の一般に社會に出でたる人物を養成し或は總督府醫學校、糖業講習所等實習的の事を教育するの機關ある事殆んど[illegible]の施設と異ならざるも內地人の教育に於ては極めて趣味ある教育を施し居り總督府中學校が一部二部に分れ[illegible]朝鮮に比して異なるは蓄人教育になれる公學校なりとす而して[illegible]を通じて就學兒童割合の如きも我れに劣らざるも朝鮮[illegible]補助教育と稱する私立學校の[illegible]に係はらず臺灣には此種の[illegible]にして外國人の設立する宗教學校、女學校等も朝鮮に比すれば甚だ少なしと云ふ



チヤンピオン傳(十)

京城券玉家席 い京事 **高松かね女**

此子は皆様も先刻御承知の通り文之助獨立して後の攫翠樓に居つて藝妓の取締りをして居た大姐である、と書くと頗ぶ物凄いが事實は決して左樣に御座らんで極めて物靜なホン/\夫れは優しく淑しい穩やかな何とも彼とも申し樣ない女だそうで御座るから御安心下されたい、扨改めて御披露申す、此子の產地は**讃岐の高松**で親は然る可きものであつたのだか仔細かつて十五の春泉州堺の龍神町から赤襟で出だのが浮世の風に吹かれるう/\十八歲に博多の柳生町券に仕替ねを取つて右に撥持ち左褄姐さん何處も今晚はと罷出でしが又候好ましからぬ都合あつて翌**二十三年**の十二月當地**攫翠樓**に住込んだのであつた、藝名は其時から現のい京である、御贔負も多かつた內にも特別深い御贔負を蒙つたのが當時本町一丁目で用達業を營業として居た**藤井友吉**と云ふ人に落籍されて判許に迎ひ還されて何事も無く迎へた四十二年の十一月藤井さんは紙藥狩から思ひ付いての少し以前ふても御座つたらう**足跡**をした此所で**京城旭町花柳界**より外らして**醜聞纏に深い谷**へ墜ちて無慘の死を遂げたのであつた、其時既にかね子のい京は又々都合があつて再び攫翠から左褄を取つて居たのである、藤井さんとい京との交情は情夫の戀人のと云ふのでは勿論なかつたに相違ないが死に角藉まできれた程なれば決して一通りの交情で無かつた事は元よりである、されば一昨年の藤井さんの凶報を聞いた彼れは三日が程と云ふもの床に臥いたとか人情然ちも有る可きである、返角して四十四年の九月芽出度年齡となつたが「未だ/\都合と云ふ奴に跟け廻られて居るので身を固めて堅氣に成れません」とシヨ/\遠慮して居ると丈けではチヤンピオン傳中の人たることは甚しい窟の島は常盤家であつて何でも當蹴りの窟は持つて居る對手れは藝妓としては至當の事で彼れか此かと詮索した結果彼は非常に**熟柿が好**きでアノブワブワしたのをツル/\ツル/\と食うはくれ酒の三杯も飲んだ跡でもあらう事なら十五六位ペロリ食つてケロリとして居る所要しく紹介に値するが夫れよりも更らに振つたのは彼れは暇さへあると**横文字の手紙**を出して眺めて居る仕舞つたかと思うと又別の横文字の手紙を出して眺めてはニコ/\笑つて居る其容子が如何にも嬉し相だ、而して夫れを何遍となく繰返す、餘りの事に或人がソツと覗いて見ると悉く**米國に居る情人**何某から成業の日を待てと申越つた**蜜の樣**な**甘い文句**、然るにても此れが讀めるとは感心と褒めると顔を眞赤にして「讀めるかと思つて見て居るのです」よ併し座うしても讀めないのよ、讀んで頂戴な」と**讀めるか思**つて**歐文を見て居るチヤンピオン**(終)

●開盛樓の劇藥情死

▽男女とも前後して即死

營地中の新地開盛樓に於て抱娼妓開花事靜岡生れの水野さく(二七)が情夫なる新京城西小門外貴賓館の藥劑師猫谷金藏(三三)と十四日午前四時頃劇藥を服して情死したる椿事あり事の本末を記さんに

▲開花の素性 は昨年中三年間金三百圓の前借にて抱られたるものにて器量人間も温和しく氣立ても優しければ朋輩との折合ひも極めて美しく樓主の信用も一方ならず客は抱娼妓ながら實際は娘の如く愛され樓主の不在なることなどあれば萬事取り計らひ居たる程なりしが夫れが却つて其身の仇ぞ成りたりとは今ぞ思ひ合はされたりと云ふ次第は同樓主は

▲夫婦ともに東京者 にして十月中所用ありて東上せしが不在中一切の事は開花のさくに一任し約一ケ月程掛けて此程漸く歸城したるが夫婦の者は深くさくの勞を犒ひ十三日の夜に入り三人立合の上不在中の精算に取り掛りしに結果二百餘圓の現金の不足あるより事情を糺したるにさくが面目なげに逐一白狀せし所に依れば不在中の金錢を抵され

▲金錢も自由になる 所から一ケ月程以前初會で登樓したる前記猫谷金藏の情から男の手練に惚れ込みて自分から上り詰め金庫の貨を注ぎ込みしものならが元より堅人ならぬ男女は主人夫婦が歸城の期の近づくを知るさ共に百方金策に盡力せしが女は型の如き籠の鳥男と云つても三十三の齊藤生百は扱せきも五十圓の金も出來ず何うしよう斯うしようと

▲評議に日を送る 間に主人夫婦は歸り來りたるに退つ引きならぬ十三日の夜の精算に大穴を出したるなりし、然れど男女は此時までも猶ほ金策に苦慮し居り猫谷は雇主なる藥房主に向ひ十三日夜金六百圓の借用を嘆願せしが元より聴する筋もなきに六百圓は愚か六十圓も用立て難しと刎ね付けられ居る間も女の所よりは主人に申譯なし早く

▲金錢を持參せよ との意味の手紙にて二度迄も追つ驅け/\督促し來りしが金藏は遂に工面の出來る目的なしと決するや十三日午後十二時頃友人の所へ行くとて何やら落着き兼ねる素振りに白紙に包める藥品を携帶して立出で其足にて直ちに開盛樓に登樓し二階の一室に開花と密談を續け居たるが十四日五時半頃朋輩娼妓の高原イチが起き出で同人等の居る室前を通りし に何やら

▲陰ら聲に泣き聲 の交りて聞ゆるにぞ薄々は事情を知れるれいちは万一無分別な事をしたのではなきかと室内に入り見れば金藏が腕を抱いて悶へ苦しめるを開花のたさくは甲斐/\しく介抱し居るなり合點行かずとれいちは「猫谷さん何か飲んだのだらう」と聞きしも猫谷は苦しき息の下より「飲んだのだよ申譯なさに二人共飲んだのだ」

▲俺もお前さくも死ぬ るのだ二人で飲んだ藥品は布團の下にあるよ」と云ひしよりれいちは扨こそ毒藥情死なりと驚ぶが如く樓主の室に走り其の次第を告げたるより茲に一同の大騒ぎとなりしなるが開花は樓主の顔を見るなり只一言「濟みません」と云ひたるのみにて苦悶し初め人事不省に陷りしが急報に接したる櫻井町の池上醫師馳せ着け來診應急手當を施したるは午前七時頃なりしかど天命茲に盡きたりけん

▲男は 同七時半頃女は同八時頃强烈なる痙攣の二回目の休止と同時に必殺委縮に罹りて男の跡を追ふて死出の旅路に上りたり醫師の診斷に依れば兩人ともにストリキニーチの滴藥を服したるものならんと

▲情死者の素性 情死者開花事水野さくは靜岡縣立高等女學校卒業生にして卒業後郷里に於て小學校教員と結婚せしが開花は天性淫婦持ちにて深く樓を戀し騒動を惹起す事屢々なるより夫に愛想を付かされ遂に離縁となりしが昨年三月家事の都合に因り前借金三百圓にて開盛樓に抱へられしが此の妓容貌美にして悧巧者且つ初々しく當年二十九歲なるも一見二十四五歲より上に見られぬ又見る者をして娼妓とは見受けられぬ位にて同樓の流行妓となり席順二番と下らざりし而して開花が相當教育ある事及裁縫の上手なるを知り樓主の信用を得て樓內代理を爲すに至り開化樓內一同の衣裳一切開花が裁縫し居たり而して天性の癖は都度起り客を驚かせる事屢々なりしと情夫猫谷金藏は渡鮮後は南大門通り新井藥房に雇れ藥劑師を勤め居たる男なるが兩人情死するに際し父母兄弟に宛て己を得ざる事情にて自殺仕候間御一同何卒御許し下され度云々の遺書を連名にて認め又樓主に對しては相濟みません云々終りに兩人共合葬して下され度しとの遺書あり死體は女さくは樓主に於て處分し男は他に引取人なきより民團に引渡す

●劇評「車夫の反忠」

▽一杯食つた池田君

何に掛けても五分とは透さぬ旭町一丁目のと斷る迄もない池田長次郎君蔵日の事龍山の某請負師と精養軒に小宴と開いた座に召されしが玉家席の仇吉と中檢の獨立藝妓れ鯉の二妓、双方どもに飲手であるから座敷は面白い其日は十二分の歡を盡して散會したが其後は大に此兩妓を贔負にして居る、と丈けなら何の變哲も無いが池田君は中にも仇吉がれ母さんを口僻にしてる所に同情し一度は逢つて慰めて遣らうと思つて居る矢先の十二日四時頃明治町で出會つたのが京城樓の小萬「此れから仇吉姐さんの所へ遊びに行きますが行らつしやいませんか」と誘はれたので「ヨシ、行かう」と二人伴れドヤ/\と押し込んで見ると仇吉は膳に進ろとかいろは文字然らせ候と行つて居たが跡客の御入來と下にも置かぬ接待振り隙を見て一寸菓子買に立つた膝から落ち散つた封筒「財前さんどの必親展鈴木より」と併かも美事な男文字、目早く見付けた池田君、仇吉奴人に向つてはれ母さん/\と殊勝らしいことを云つて居るだ何うすか見ろと腹の裡に一計を案じつゝ其場は然あらぬ體にて六時頃歸途小川勝平君の宅に立寄り硯引き寄せさら/\と認め上げた手紙の文句

是非々々至急御目もじ致し度き事有之候間此者の事にて本田旅館迄御入來下され度委細御目もとの上

鈴木より

仇吉さま

とあるをれ手前ものゝ本町組の車夫に托し車を持たせて出し遣りて小川君ともく何と返事が來る事か夫れとも迂濶車に乗つて出て來るか待つ間程なく空車を曳いて立戻つたる使の者が持つて來た手紙に曰く

御懇篤なる御玉章有り難く拜見仕候如何なる御用件かは存じ候はねど今晚は和泉澤山有之のみならず藝妓の宿屋に出入するてと其筋より堅く禁せられ居候間惡しからず御赦し下され度候先は御返事迄かしこ

小川勝平より

池田長次郎樣

車夫を買收した仇吉が早速の働きに流石の池田君小川君と顏見合せてウーム

●同宿者を騙る 原籍熊本縣飽託郡川尻町六百二十六番地當時仁川京町開豐旅館止宿江良繁樹(三三)は同宿者高井末太郎が所有の外套及洋服類を知人たる京町林田方に預け置きあるを窺知し十三日夜七時頃高井の使者と稱し林田方に行き外套洋服類を詐取し新町大原質店に六十六圓五十錢に入質し京町二丁目和田料理店にて遊興を爲し居たるが同夜高井は洋服必要あり林田方に行き請取らんとせしに既に先刻使の者に渡したりと云ふより高井は大に驚き其人相等同宿の江良に似寄りたるより直ちに其筋に訴出でたれば山田、杉田の兩巡査が犯人捜査の結果前記和田方にて遊興中を探知し直ちに逮捕し本署に引致したるより阪下今井の兩刑事にて嚴重取調べたる處此奴は去六月中京城北米倉町丸二商會に雇れ中數十圓を横領し四箇月の懲役に處せられ十月廿九日出獄せし前科者なるが何餘罪ある見込にて野村警部の手にて取調中なり

●姦夫姦婦の處刑 原籍大阪市南區高津町六番町七番地當時仁川新町二丁目三番地鍛力職木村常次郎(一五)と大角重三郎の妻ひさ(三五)の姦通事件は訴訟取下げの交渉不調に終りたるより十三日判決言渡しあり檢事の求刑通り常次郎は懲役一年ひさは懲役六ケ月に處せらる

●小栗の次回公判 高利貸小栗榮吉の詐欺取財事件は來る二十二日午前十時より京城地方裁判所刑事部法廷に於て塚原裁判長の係り兩角檢事立會の下に公判開廷せらる可く當日被告辯護人として辯護士木尾虎之助大久保雅彦の兩氏出廷す可し

●鮮人二人組窃盗 水原郡所謂徐相濂(三三)劉敬國(十八)は本月一日午後十時頃旭町一丁目野村鹿之助方に忍入り窃盜の錠を破壞し御召給外二十五點(代百五十餘圓)を窃取し貸外數ケ所に於て同一の手段にて金品二百餘圓を窃取し南部署の刑事に逮捕され目下取調中

●子を持つ親は注意 京城龍山漢江町二十九番戸松田佐々次長女ミトリ(六つ)は十三日午後一時頃龍山稀附近に於て迷子となり居りたるを龍山署にて發見保護の上佐々次に引渡したり子を持つ親は常々心掛け肝要なり

●龍山に猩紅熱 原籍鹿兒島縣川邊郡加世田村大字川邊四十一番地當時龍山鐵道官舍第三十三號技師小城青妻タカ子(三六)及び三女文子(一〇)は此程何れも猩紅熱に罹り十四日總督府醫院へ入院

●座食法發明者の處刑 昨紙に新案「座食法」と題して報道したる平岡鎭太郎(四二)に係る詐取橫領事件は京城地方裁判所仁川支部に於て審理中の處十三日懲役八ケ月に處せらる

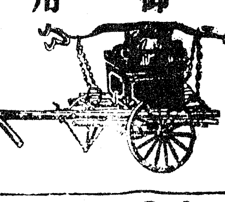
●賭博 山梨縣人當時南山町二丁目八十二番戸小田切良信(五四)妻ウラ(五〇)兵庫縣人西村莊兵衛(三三)の三名は十三日午后三時半頃賭博の現場を檢擧され科料金各十圓に即決

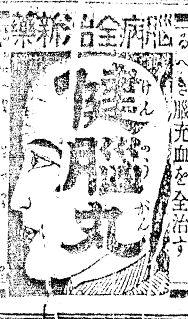
●泥醉 島根縣人當時南大門內梅谷留一(三五)は十三日泥醉し街路を徘徊し通行人に妨害を與へ南部署に突出され拘留五日に即決

●演藝だより

▲歌舞伎座 吉田奈良男一行の浪花節
▲壽座 千里眼三田光一一行の大奇術
▲浪花館 竹本小浪一座の娘義太夫
▲佐久良座 吉川今勝一行の浪花節

●諸公債諸株券 現物賣買、迅速確實に御取扱可申候
兼業 既製洋服卸小賣 陸軍官衙御用達
京城本町三丁目
大阪野村銀七代理店
田中友吉商店 電話九九三

消防ポンプ各種喞筒
朝鮮 各官署 大阪府 警察部 消防署 市役所 鐵道院 御用

並に消防道具製造一式
大阪市西區阿波座上通二丁目
第四十一番屋敷
大阪喞筒合資會社

神經をとゞめ 腦病を全治す
島村醫學博士の有効證明を得たる健腦丸は、腦病神經病に奇効を奏し逆上を引下げ、便通を心能し、中風卒中を未發に防ぎ恐るべき腦充血を全治す

腦病全治新藥 健腦丸
記憶力悪き人、頭痛する人、神經衰弱にて氣分鬱ぐ人、常に腦神經を勞する人の必用藥は獨り本劑のみ也
代理店 新井藥房

複方 アンチヘブリン
はやりかぜ、ねつ病一切 づつうの良藥
發賣元 京都市三条新町 川村資善堂
藥價 二日分 金拾戔 五日分 金廿戔
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城十六番

●英國倫敦アスピナル會社製
エナメル
英術的塗料 自轉車、箱車、金屬 ●家具用●輕便塗料●諸看板●建築物●誰にも
すぐぬれるペンキ
▼木材に塗上げ美麗堅牢無比なり ▼各色一罐八拾錢 送料八錢 ▼各色一罐 貳拾五錢 ▼送料八錢
日本一手販賣 東京市芝區露月町(電話芝園千九百七十二番) 舶來各種塗料 ペンキワニス問屋 淺羽商店

各種食料品全備
(珍らしき食料品悉く取揃て居ります)
食料諸雜貨一式
▲生魚部 產地馬山浦より直輸品
▲野菜部 從來南大門市場中にて有力且物品豐富なる鮮人數名
▲果實部 紀州みかんは弊店特に誇るべき直輸入品
▲荒物部 乾物、鑵詰、雜穀、酒、醬油、味噌、砂糖漬物類御贈答用品各種四季の食料珍品悉皆取揃
今般各位の御勸めに依り食料品市場開設致遺漏なく食料品一切取揃大勉强にて御需に應し可申候條續々御光來相待申上候
京城本町六丁目(櫻井町角)
サ 酒井商店
電話五八七番

歐米 新建築材料 直輸
◎マルソイト便利瓦
◎石綿セメント瓦
◎P&B建築用紙
◎P&Bフエルト
◎P&Bアスファルト
◎吉田木材防腐劑
◎特許自働窓框止
◎建築用金物類
◎壁紙及硝子紙
◎リノリユーム敷物
◎亞鉛打拔中心飾
◎鋼鐵打出天井板
京城永樂町二丁目 東京藤原京城支店 (電話一八九番)
工事見積等は懇切に御相談に可應候間御用の節は御一報被下度候

東京勸業博覽會一等賞金牌 東宮殿下御覽 京城肉牛品評會(?) 乳牛料牛
洋種乳牛及朝鮮牛賣買
牛皮牛骨の買
入院 隨意 京城家畜病院
種豚山羊家禽種卵 多木肥料販賣代理店
京城古市町九番戶
朝鮮畜產株式會社
電話八八番

緩和下劑
カスカラ糖衣錠
東京三合共資會社朝鮮總代理店
仁川本町 竹田津三平

英國製

直輸入新荷着
車體堅牢にして優美
スヰトホーム號
歐米各國自轉車直輸入商
京城本町二丁目
織居商店自轉車部
(電話四八〇番 略オ)

一日にして効能現はる
複方 タルリン
結方、高橋兩病院長有効證明
りんびやう、つらい病薬

價 三日分 七日分 十四日分 廿錢 四十錢 七十五錢
本舖 日本大阪 高橋盛大堂
代理店 京城本町五 木下大盛堂 南大門三 新井藥房
到る所の藥店に販賣す

木綿、太物
メリヤス
綿、文房具
紙、帳簿類
干物、食料品
鑵詰、荒物
金物、洋傘
日鮮人向雜貨
帝國化粧品研究所
明月あらい粉代理店
朝鮮仁川港
御商 コ 小林倉二郎商店
電話三六六番
振替口座京城一九九番

最上醬油
高
釀造元
仁川港萬石町
高杉醬油釀造場
電話七六五番

政宗 正則 正清 釀造元
酒 小賣壹升に付二十五錢
卸賣は特別割引可仕候
清酒 焼酎 味淋 釀造元 京城(?)町三丁目 中井酒造場販賣部
並に日用食料品鑵詰類
電話百七十七番
電話にて御注文の際は一升以上は店員をして速運致さすべく候

DIGESTIN
日、英、米、露、佛、伊、白、印、加、墺、瑞 十三ケ國 政府特許 專賣
新消化藥 ヂゲスチン
▲銀賞牌受領!(發明品博覽會に於て)(日英大博覽會に於て)
本品の特徵は彼のヂアスターゼと異り單に澱粉質のみを消化するものに非ずして克く食物中の主要成分たる蛋白質をも完全に消化し血中へ吸收せしむる世界無比の胃腸最新藥なり▲販賣所は各地藥店にあり
發賣元 合資會社 圓城商廛 東京市日本橋區本町三丁目

酒精アルコール
●新荷着
仁川花町一丁目(電話六五〇番)(電略サ)
坂倉支店

營館には夜警の設備有り
陸軍指定旅館
鐵道院指定旅館
仁川水產組合指定旅館
第一各保險會社指定旅館なり
御客樣の安全此の上なし
旭屋旅館
電話二五一

英國セフヒールド市 シーボムアンドデイキスタル製鋼會社特約品
鑛山用 地球鷲印八角鋼
鐵道用 同 角磨鋼
職工具用 同 鑢各種
右は朝鮮一手販賣罷在候處清鮮地石材穿鑿具製作用として最も適當の爲め至極好評を博し價格亦內地輸入品より格外廉價に御座候間何卒一度御試用奉希上候
京城本町五丁目
和洋金物商 釘本藤次郎本店
(電話四五番)(電信略號ク)振替貯金口座京城二五六番

効能ある温泉
浴用効能 りうまちす、ちうふう、しんけいつう、ぜんそく、かつけ、らいびやう、ばいどくせいできもの、ひんびやう、しようかち、しきゆう、ヒのひたみ、つきやくふちゆん、ひせんがんがさ其他皮膚病一切
外用効能 きりきず、やけど、しもやけ、ただれ、あたまがさ、ちきづ、ひせん、はのいたみ、ひんけつ、しんぞう、めびよう、ちようかたる、らいびよう、せきずい、せんだう、ちゆうふう、げり、はら
内用効能 いつう、りようちち、まんせいできもの、いんきん、たむし、うひんけつ、かんてうかたる、いたみ、病後衰弱、りんびよう、しきう、癌のよい
京城長谷川町一丁目 韓銀總裁所北横手(電話一四一一番)
旅館 浴客 貸席
鐵冷温泉

京城旭町一丁目
齋藤歯術所
電話一四一四番

●新案韓語栞發賣所
●國語指南
平田商店
朝鮮京城本町三丁目
教育用品 部
電話一一一五番
電信略號(ヒ又はヒラタ)
振替口座京城四六八番
物理化學機械
標本 模型類
體操及運動具
教具校具一式
測量製圖機械
水彩及油繪用品一式
和洋紙類一切
歐米文房具

齒科診療
京城本町二丁目三越吳服店前 野田齒科醫院
仁川仲町三丁目末永吳服店隣 野田齒科醫院分院

特約店
醬油 甘露醬油
醬油 ▲宇治銘茶 ▲清酢
大日本麥酒株式會社
味噌醬油醸造元
和洋酒類、和洋鑵詰 穀物麵類、乾物荒物 野菜果實、薪炭 其他
諸漬物問屋 日用品一切
御贈答用進物品並に商品券調製仕候間御用命の程希上候
陸軍官衙諸御用達
京城本町五丁目 電話二百五十一番
大上友太郎商店


特約販賣店 仁川 高雄支店

京城割烹 茲齋流
すし津祢
南山町一丁目
電話千五百二番


目藥 かいせい 春
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九〇四番 一〇六八番
振替口座京城十六番

三味噌
京城南大門通二丁目 製造元 遠藤商店 (電話九八二番)

公州 芙江 間 定期出帆
芙江發毎日後一時四十分公州着後六時
公州發毎日前七時芙江着後四時牛船內
御客樣の娛樂用として新聞雜誌將棋盤等の備付あり
京釜芙江驛前 中條運送芙江支店

キ 十一月中 滊船出帆廣告
安來丸 鎭南浦行 十一月十日前九時
天草丸 濟州行 十一月十二日前六時
三省丸 濟州行 十一月十一日前五時
海利丸 屯串行 十一月十日前十時
安來丸 大湖芝行
合資會社 仁川本町四丁目 電話一七三番七一〇
秋田商會船舶部